

新春対談

いすゞ自動車東北(株) Ishikawa Tetsuro
代表取締役社長 石川 哲朗

東北リース(株) Kanno Hiroaki
代表取締役 菅野 浩昭

小型トラックの市場シェアNo.1を守り続けるいすゞ車は、品質の高さから大きさを問わずに建設車両として活用される頻度が特に高い。宮城地場レンの東北リースの菅野社長がいすゞ自動車東北の石川社長に、顧客に支持され続ける秘訣などを聞いた。



車両の丈夫さで 建設系から支持

菅野 建設現場でトラックは非常に身近な存在で、その中でもいすゞのトラックはとても丈夫で頼りになる車というイメージを持っていて人が多いと思います。特に建設関係ではいすゞの車両が人気がありますので、当社もたくさん揃えています。

石川 ありがとうございます。当社の車型ごとのシェアでは、確かに貨物系よりも建設系ユーザーが高く、大変ありがたいことです。

菅野 品質の良さもそうですが、製品に対する確かなアドバース、メンテナンスで現場を支えていただけることも、これだけの支持につながっていると思います。

石川 トラックは仕事の道具ですので、できるだけ故障で仕事を止めないように、万が一何かが起きた場合は迅速に対応す

ることは当然ですが、問題発生を未然に防ぐ予防整備にも会社全体で力を入れて取り組んでいるところです。

新サービス工場は 2月稼働を目指す

菅野 整備工場の増強もご計画されているそうですね。

石川 はい。震災以降に販売台数が増えたことに伴って整備需要も増加し、いすゞ自動車東北の本社サービスセンターは全国で入庫台数が一番多い状態が続いています。そのことでお客様にご迷惑はかけられませんが、一過性ではなく今後この状況が続く見込みですので、以前の宮城いすゞ跡地に大型から小型まで5台分の作業ができるサービスセンターを新たに設

けることは当然ですが、問題発生を未然に防ぐ予防整備にも会社全体で力を入れて取り組んでいるところです。



けることにしました。ことし2月の稼働開始を予定しています。

菅野 取り巻く状況を見て、整備工場の新設をスピーディーに進める積極性は、ナンバーワンを目指す企業の責任という側面もありますよね。

石川 そうですね。それから、ハード面の強化だけでなく人員の増強も同時に進めなければいけませんので、2015年度はメカニックを33人採用し、そのうちの22人は新工場の稼働開始を視野に入れて宮城県に配属しました。われわれのサービスをさらに良いものとするためには人材育成が非常に重要で、人員数の確保とメカニックの技術の向上、この両方が必要だと考えています。

菅野 人材育成の重要性は私も同感です。やはり、社員が会社を

いすゞ自動車東北 & 東北リース

国内トラック初となる
ミリ波レーダーにカメラも
併用する二重検知システム
でトータルセーフティを実
現した新型「ギガ」



代表して取引先に営業に行ったり、車を直したりするわけですから、お客様にとってはその社員が会社の顔となります。その意識を持つて社員に行動してもらおうというのがお客様に満足いただくという面でも大切です。われわれは不特定多数に車を貸しますが、お客様は稼ぐために借りるわけです。それが簡単に故障してしまうと、お客様の障だけならまだしも、お客様の

心も故障してしまいます。そうならないためにも、いすゞさんからの確かなアドバイスをいただき、今後の目標として社員の育成とサービス向上につなげていきたいです。いすゞさんは今年の目標など何かございますか。

人と環境に優しい トラックの時代

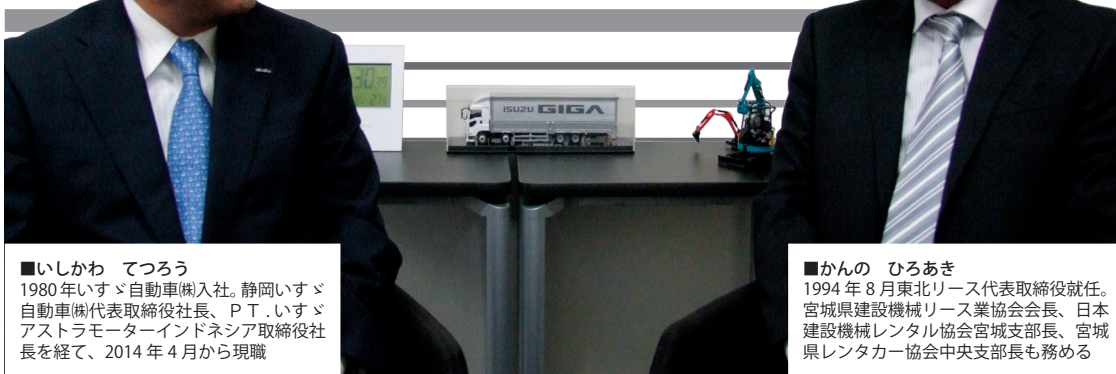
石川 震災需要が一服しても、地域全体ではまだまだ働くトラックの稼働状況は高水準のまま当分続くと思います。その稼働を支えるためにも整えた新工場や人員をしっかりと機能させ、なお一層お客様に喜んでいただけるように努力したいですね。菅野社長はいかがですか。

菅野 被災地はまもなく震災から5年を迎えますが、集中復興期間であるこの5年間で、例えば物を運ぶ、土を運ぶことなど、トラックはとても大きい役割を復興のために果たしました。今後は、将来の真の復興を

見据えたトラックの活躍を期待していて、物を運ぶ機能は当然として、環境や人に優しいトラックを貸すことで復興に貢献したいし、そういった商品を提供することで選ばれる企業を目指したいと考えています。

石川 安全かつ環境対応した車は時代の流れですから、われわれも力を入れているところで。トラックによる痛ましい事故を少しでも減らすように、新型の大型車ギガにはカメラとレーダーを標準装備してより安全性を高めています（車型により一部オプション）。ぜひ、ご利用ください。

菅野 われわれも少しでもいすゞファンが増えるように、リース・レンタールを通じて頑張ります。今日はありがとうございました。



■いしかわ てつろう

1980年いすゞ自動車㈱入社。静岡いすゞ自動車㈱代表取締役社長、P.T.いすゞアストラモーターインドネシア取締役社長を経て、2014年4月から現職

■かんの ひろあき

1994年8月東北リース代表取締役就任。宮城県建設機械リース業協会会長、日本建設機械レンタル協会宮城支部長、宮城県レンタカー協会中央支部長も務める